

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 06 月 25 日現在

機関番号：34416
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21730283
 研究課題名（和文）
 アジアにおける国際金本位制の成立と近代銀市場の担った役割について
 研究課題名（英文）
 The Role of the Modern Silver Market under the International Gold Standard in Asia
 研究代表者
 西村 雄志（NISHIMURA TAKESHI）
 関西大学・経済学部・准教授
 研究者番号：10412420

研究成果の概要（和文）：

研究成果としては、香港の銀本位制の特徴を描くとともに、国際銀行業の役割について、横浜正金銀行を主な事例として研究した。それと並行して在来の金融商人の活動とロンドン銀市場におけるイングランド銀行とインド省の役割についても研究を続けている。またアジア各地の銀市場の動向についても資料収集と並行して続けている。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research project is to analyze how the modern silver market contributed the economic development in Asia before 1913. During the three years of the project, I have analyzed that the silver standard in Hong Kong before 1913 and how the activities of the Yokohama Specie Bank contributed the economic development of the British India and Japan. These topics, the activities of the traditional financial merchants and brokers in Asia, the role of the Bank of England and the Indian Office in London silver market and the systems of the local silver markets in Asia, were not still finished. After ending the project, I continue to research these topics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：金為替本位制、銀市場、国際金本位制、横浜正金銀行、アジア間貿易

1. 研究開始当初の背景

本研究課題を開始した段階では、ロンドン銀塊市場に関して、その重要性を Spalding の研究をはじめ、戦前からの研究蓄積によって認識されていたが、具体的に取り組んでいる研究は少なかった。日本語文献としては、横内氏の『新潟大学 商学論集』20号に掲載

されている概論的なものがあるが、実際に取り組んだ研究は少なかった。従って、本研究課題は、その実像に少しでも接近することを意図したものであった。

同時にロンドン銀塊市場とともに、アジア各地(ここではボンベイと上海)の銀塊市場について見た場合も、先行研究は皆無とって

よい。インドの場合、ムガル帝国期の金銀取引について研究があるのに対して、東インド会社解散後の市中における金銀取引については少ないのが実状である。上海については、一次資料が少ない要因もあるが、こちらも研究成果が乏しいと言わざるを得ない。これらアジアの銀塊市場の事例についても不明な点が多い。従って未だ十分に解明されていない研究テーマと言える。

また実際に銀取引に深く関与していたアジアで活躍していた国際銀行業についても十分に研究されているとは言えない。とくに横浜正金銀行のアジアにおける活動については研究が進んでいるとは言えない。

本研究課題に取り組む以前は、19世紀末から20世紀初頭のアジアにおける経済発展については十分に周知されているものの、それを支える金融部門あるいは貴金属の状況については、未だ知見が少ない状況であった。

2. 研究の目的

研究代表者自身は、これまで英領インド、海峡植民地、香港の通貨制度を事例として、19世紀末から20世紀初頭のアジアにおける国際金本位制の展開を議論してきた。そのなかで銀の役割を描いてきたが、そのなかでロンドン銀塊市場の重要性についても強調してきた。本研究課題は、これまで取り組みが薄かったロンドン銀塊市場について、アジアの視点から取り組むことを最大の特徴としている。

またアジアにおける実際の銀取引について見た場合、ボンベイや上海で活動していた商人の活動についても留意しなくてはならない。本研究課題では、これら商人と銀取引あるいは国際銀行業との関係性についても着目して、実際にアジアでどのように銀取引が行われていたのか検討したいと思う。

3. 研究の方法

研究方法としては、主にロンドンの国立公文書館、大英図書館の旧・インド省文書、HSBC Group Archive、イングランド銀行資料室、ロスチャイルド文書館に所蔵されている資料を中心に、イギリス議会文書や当時の経済雑誌の記事を加味して検討を加える。

日本国内では、東京大学経済学部図書室が所蔵している横浜正金銀行の内部資料、東京の国立公文書館、外交史料館、三井文庫の所蔵文書を収集し、他には大阪市立大学図書館、

京都大学図書館、東京大学図書館、関西大学図書館、松山大学図書館に所蔵されている当時の記録を分析して、当時のアジアに積極的に進出しようとしていた日本側の見解についても調査している。

可能であれば、インド、シンガポール、香港、上海の文書館にも足を運び、現地に残る一次資料を収集することも考えている。しかし、多くの場合は効率的な収集が出来るインフラが整備されていない事もあり、そのためにロンドンでの資料収集が多くなるかもしれないが、可能な限り赴く所存である。

4. 研究成果

(1) 香港の銀本位制について

本研究課題に取り組むなかで、香港の重要性を無視する訳にはいかなくなり、この課題の一環として香港の銀本位制の分析に取り組んだ。

香港はアヘン戦争によって清国からかつ割譲されていた後、当初はイギリスと同じ金本位制を志向したが、現地に住む多くが中国系商人であり、彼らがメキシコドルをはじめとするスペイン系銀貨を使用していた事もあり、1860年代には銀本位制に移行した。その後、香港独自の銀貨鑄造を開始するが失敗し、1890年代には再び東アジア独自の英系の銀貨鑄造を試みるが、結果的にメキシコドルの支配的地位を奪取することは出来なかった。

香港では、銀貨とともに銀行券が重要な役割を担っていた。この点は、銀のアジアでの地位を考えるうえで、金との関係のみに中止することが根本的な誤りであることを示している。香港市内では、銀行券の方が銀貨より高く評価されていた事例も少なくなく、香港の銀本位制が、銀貨を最も中心的な媒介手段にしたものではなかったことは、アジアの銀流通を考える中で意識しなくてはならない。

本研究では、香港の通貨制度を通じて、アジアの国際金本位制が、銀本位制が香港の現地経済の特徴に合わせることで、それらすらも内包していた特徴を示している。そのなかで銀行券の役割が大きかったことを明らかにした。

(2) 横浜正金銀行の外国為替業務

横浜正金銀行の設立段階での研究については枚挙に暇がない。また中国大陸における活動やロンドンやニューヨークにおける活動についても先行研究が存在する。しかし、アジアとの関係については、中国と植民地以外では、思った以上に少ないと言うのが現状

である。本研究では、横浜正金銀行のボンベイでの活動を検討するとともに、現地の商慣習でも特に貨幣の慣習を中心に横浜正金銀行の活動について検討した。

横浜正金銀行のボンベイ支店のなかで主要な業務は外国為替業務であり、とくに日本への棉花輸出が重要であった。この棉花輸出に関与した商社は「三棉」と呼ばれる商社であるが、本研究では東洋棉花を主に取り上げた。第一次世界大戦前の段階では三井物産であるが、ここでは三井物産と横浜正金銀行の取引関係、また三井物産の棉花産地に直接買い付けに行った職員と現地の棉花商人や金融商人との関係、それに横浜正金銀行がどのように関与し、ボンベイ銀行をはじめとするインド国内の主要銀行との取引を遂行したのか、主に『横浜正金銀行史』や『半季報告』を中心に検討した。

ここでの研究成果は、西村閑也先生や鈴木俊夫先生の御指導によって執筆した2本の英語と日本語の論文で明らかにした。横浜正金銀行の活動には、現地の金融業者との取引や三井物産の活動を円滑化するための前貸し等も積極的に行われていた。また預金業務に関しても、これまでの先行研究では余り積極的ではなかったことが示されていたが、ボンベイ支店の場合、むしろ反対に積極的に預金獲得に動いていたと思われる。その預金者も日本人はきわめて少なく、その多くは現地のお金持ちであった。横浜正金銀行のインドにおける活動は、現地の貨幣慣習や商慣習を意識しながら行われていたと言える。

(3) インドの伝統的な金融制度

インドの金融制度に関しては、Cambridge Economic History of India,をはじめとして多くの先行研究があり、ここでそれらすべてを列挙することは難しい。ムガル期期の金融に関するRichardの研究をはじめ、古代から現代まで研究蓄積は分厚い。

ここではインドにおける在来金融機関の活動を中心に、従来の銀貨圏のインドで金融制度がどのように発展してきたのかを明らかにした。

従来のインド金融史を、とくに19世紀中葉以降で見た場合、近代銀行業の発展と役割が主として描かれている。しかし多くの二次文献を中心にサーヴェイし直すと、インドにおける金融活動の大部分が独立前後まで在来の金融業者が担っていたことがわかった。言うまでもなく、為替銀行や株式銀行、管区銀行やインド帝国銀行が果たした役割は大きい。しかし、彼らが十分に金融を提供できなかった多くの農民や商人には、従来の在来金融業者がサービスを提供していた。そして植民地期インドの経済発展を支えたのが、そうした在地の農民や商人であったことから

見て、彼ら在来金融業者の役割はより高く評価されても良いと考える。

本研究課題に引き付けて考えた場合、インドは銀貨圏であり、金為替本位制が導入された後も銀貨を使う慣習が強く残存していた。これは在来の金融業者の活動と在地の農民や商人の商慣習が、支配的立場にあるインド総督府の見解を改めさせた事例であり、インド総督府とインド省は、銀貨導入を政策決定した後は、むしろ積極的立場でインドに銀貨を供給した。

(4) ロンドン銀塊市場におけるインド省

ロンドン銀塊市場に関する包括的な研究は皆無である。またロンドン銀塊市場で中心的な役割を担っていた4つの銀ブローカーに関しては、既に一次資料の多くが散逸しており、こちらから接近することは現在のところ難しい。しかしロスチャイルド文書館に膨大な金銀取引の文書が残されており、こちらからの接近は可能であるが、未だ整理されておらず、本研究課題の期間ではどのような資料があるのか確認するだけに止まった。

こうした取引主体からの接近にはもう少し時間的な余裕が必要であるため、本研究課題の最終盤からは、インド省の文書から当時のロンドン銀塊市場について検討を始めている。20世紀初頭のインド省はロンドン銀塊市場で最も大きな購入機関の1つであり、彼らの側の資料からある程度の現状がわかると考えたからである。

現在、旧・インド省文書のファイル进行分析している途中である。これらの成果は出来るだけ早く英文のペーパーで発表するつもりである。またロスチャイルドの文書館での調査は引き続き行っており、こちらについても新たな発見があれば早急に論考に纏める予定にしている。

(5) イングランド銀行とロンドン銀塊市場

イングランド銀行で見つけた一次資料を用いて、20世紀初頭のイングランド銀行がどのようにロンドン銀塊市場をモニタリングしていたのか考えている。この研究は、まだファイルの資料を読んでいる段階であり、まだ纏められていない。

イングランド銀行は毎日ロンドン銀塊相場の動向を調査し記録にとどめている。しかし金価格に関しては、毎日同じ額が記されており、ロンドン金市場の価格動向は同じファイルに記録されていない。この点から、イングランド銀行は金を購入する際に、すでに金ブローカーとの間で契約された価格で購入することが可能であり、そのためイングランド銀行内部に金をストックしておく必要がなかったと考えられる。バジヨットが危惧した点は、イングランド銀行とロスチャイルド

をはじめとする金ブローカーとの契約によって、外部委託されていたと推察される。

こうしたロンドン金塊市場に関するファイルも並行して読み進めている。この分析からもロンドン銀塊相場の特徴の一端が見出せるものと考えている。

(6) アジア諸都市の銀市場と商人

上海銀市場に関しては、横浜正金銀行や満鉄の資料である程度の概観を掴めるが、他のアジア諸都市の銀市場に関しては、未だ不明な点は多い。

本研究課題では、ボンベイの銀ブローカーの資料を、両大戦間期のものではあるが、収集することができた。また香港銀市場に関する報告書も収集しており、現在それらを分析している最中である。これらの研究結果を本研究課題の期間で発表することは出来なかったが、できるだけ早くインド現地での調査も実施して早急に纏めたいと考えている。

(7) 東南アジアにおける国際銀行業と銀市場

この研究課題は、最終年度に開始したものであり、未だ概観しか得られていない。その理由は資料を見つけたのが遅くなったためであり、この課題に有益だとは思われるが、最終年度のうちに一定の目途をつけることは困難であった。

発見した資料の1つが香港上海銀行のバンコック支店の行内資料である。この資料を使い、西村閑也先生の行内資金循環の方法を使わせて頂き、東南アジアにおける香港上海銀行の活動を描く。そのなかで銀がどのような役割を果たしていたのか、一例を示したいと考えている。

もう1つは横浜正金銀行の支店勘定である。これらを駆使して、両大戦間期の東南アジアにおける資金循環の状況を描くとともに、これら銀行間で銀がどのような役割を担っていたのか明らかにする。

いずれも興味深いテーマであり、今現在取り組んでいる最中である。考えの大枠が纏まれば、早急に英文のペーパーとして書きたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計5件)

- ① 西村雄志「両大戦間期インドにおける決済構造の重層性」第80回社会経済史学会全国大会 パネル・ディスカッション、立教大学、2011年5月5日。
- ② 西村雄志「両大戦間期の英領インドにおける小額貨幣：紙幣局報告書の分析を中

心に一」社会経済史学会近畿部会サマージンポジウム、大阪市立大学文化交流センター、2010年08月20日。

- ③ 西村雄志「香港における銀本位制の成立と銀行券の役割について」第78回社会経済史学会全国大会 パネル・ディスカッション、東洋大学、2009年9月27日。
- ④ Takeshi Nishimura, “Activities of the Yokohama Specie Bank in the Osaka-Kobe Area before 1913”, P9 – International Banking in Asia, 19th-20th Centuries, 15th World Economic History Congress, Utrecht 2009 International Economic History Association (IEHA), Utrecht University, 7th August, 2009.
- ⑤ Kaoru Sugihara & Takeshi Nishimura, “Railways, Exports of Primary Products and the Commercialisation of Forests in British India, 1890-1913”, A7 – The Labour-intensive Path of Development in South Asia: Environment, Division of Labour and the Quality of Life, 15th World Economic History Congress, Utrecht 2009 International Economic History Association (IEHA), Utrecht University, 6th August, 2009.

[図書] (計5件)

- ① 西村雄志「横浜正金銀行」西村閑也・赤川元章・鈴木俊夫(編著)『国際銀行業とアジア』慶應義塾大学出版会、2012刊行予定。
- ② 西村雄志「銀本位制から金本位制へ：アジア諸国」西村閑也・赤川元章・鈴木俊夫(編著)『国際銀行業とアジア』慶應義塾大学出版会、2012刊行予定。
- ③ Takeshi Nishimura, “The Activities of the Yokohama Specie Bank in the Foreign Trade Financing Operations for Raw Cotton before the First World War”, Shizuya Nishimura, Ronald C. Michie and Toshio Suzuki (eds.), *The Origins of International Banking in Asia: The Nineteenth and Twentieth Centuries*, Oxford: Oxford University Press, forthcoming.
- ④ 西村雄志「インド」国際銀行業史研究会(編)『金融の世界史』悠書館、2012刊行予定。
- ⑤ 西村雄志「20世紀初頭における香港の銀本位制」籠谷直人・脇村孝平(編著)『帝国とアジア・ネットワーク：

長期の19世紀』世界思想社、2009年、
282-305 ページ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西村 雄志 (Nishimura Takeshi)

関西大学・経済学部・准教授

研究者番号：10412420